

報 道 資 料

平成19年10月4日

NPO法人電子自治体アドバイザークラブ

事務局長 多田 TEL:0742-33-7863

総務部知事公室広報広聴課

広聴・県民参加係 林 (内線2136)

19年度下期「なら県民電子会議室」のスタートについて

～ 県政について県民同士で意見交換 ～

昨年11月に開設した「なら県民電子会議室」は、平成18年度下期、19年度上期の成果を得て、19年度下期の電子会議室を10月5日にスタートいたします。

当電子会議室は、ネットワーク社会が進展する時代の背景に合った、新たな県民の意見交換の場として注目されています。ホームページ上に設置した電子掲示板を使って、参加者が自由に意見を述べ、議論に参加できるため、参加者同士あるいは参加者と県職員が地域の課題について一緒に考えていく新たな県民参画の場として期待されています。

奈良県を良くしたい、自分の住んでいる地域を良くしたいと思っている人たちに集まっていただき前期までの経験を活かし盛り上がりのある電子会議室にいたします。

1. 平成19年度下期の取組

運営委員会のメンバーに関係分野の有識者に参加いただくとともに、コーディネーターに経験豊かな方をお願いして、次の3つのテーマにより実施します。

なお、テーマ とテーマ は、今回新規テーマとして実施します。また、テーマ は、19年度上期のテーマのサブテーマを変更し、継続して実施します。

(1) 実施するテーマ

ストップ温暖化を考える

～ 家庭・地域から温暖化防止の取り組みを広げよう～

世界に開かれた奈良づくり

～ 海外への奈良の情報発信や外国人観光客の誘致など～

みんなで教育について語ろう

～ 子どもを育てるための家庭・学校・地域の協働～

(2) 実施期間

平成19年10月5日～平成20年3月31日 6ヶ月間

2. 平成19年度上期の実施結果

(1) 実施したテーマ

自分たちでできるまちづくり

～ 地域住民主体による魅力あるまちづくりの提案～

みんなで教育について語ろう

～ 子どもたちの学び舎、学校づくりを地域ぐるみで考えよう～

奈良県の観光戦略について考えよう

(2) 実施期間

平成19年4月13日～19年9月30日 約6ヶ月間

(3) 電子会議室へのアクセス・投稿状況等

	19年上期	18年下期	合計
トップ頁アクセス数	22,672件	11,078件	33,750件
登録者数(期末)	127名(累計)	66名	-
投稿件数(月平均)	882(147)件	185(37)件	1,067(97)件

(4) テーマ別の取りまとめ概要

別紙のとおり。

3. 運営団体 NPO法人電子自治体アドバイザークラブ

ホームページアドレス www.kenminconf.pref.nara.jp/

平成19年度上期 テーマ別の取りまとめ概要

1. テーマ1:「自分たちでできるまちづくり」

～地域住民主体による魅力あるまちづくりの提案～

【提案項目】

- 県内のまちづくり情報などの発信の充実(まちづくり情報センター)
- まちづくりに関する相談が可能な総合的窓口の設置(まちづくり相談窓口)
- 身近なまちづくりを支援する専門的知識を有するボランティア、コーディネーターなどの養成、派遣制度(まちづくりお手伝い隊)
- 観光客を楽しませる、お客さんをもてなす伝統のお祭り、イベントの復興支援等(もてなしまちづくり支援)
- 防災をキーワードにしたまちづくり活動支援(防災まちづくり)

【議論の概要】

このテーマは、主として地域住民主体によるまちづくりに関するもので、内容は行政への提案というよりも県民等に対する呼びかけといった意味合いを持っているが、行政が行っているまちづくりへの要望や感想等も寄せられた。議論の概要を分類すると次のようになる。

- まちづくり意識の醸成
- 身近な活動によるまちづくり
- 観光客を楽しませる、お客様をもてなすまちづくり
- 歴史的資源を活かしたまちづくり
- ボランティアのまちづくり
- まちづくりの情報
- その他

2. テーマ2:「みんなで教育について語ろう」

～子どもたちの学び舎、学校づくりを地域ぐるみで考えよう～

【提案項目】

- 学校支援地域本部を積極的に設置する
- PTA や学校に向けた学校支援地域本部の設置研修会を行う
- ネットワーク型授業(よのなか科の授業)をカリキュラムに導入する
- 地域のリソースを学校教育に注入するための検討会、「産業教育研修会」を設置する
- 学校経営に関する管理職向け研修会(人事交流を含めて)を積極的に行う

【議論の概要】

この会議室では「おらがまちの学校」として自慢できる「元気な学校」づくりの方法や子どもたちが健やかに育つための学び舎の姿などを中心に議論し、その中で大人が学ぶことを通して、県内各地の取組が活発になり豊かな子どもたちの育ちの場として多様な「おらがまちの学校」が生まれることを目的とした。

・成果

- 学校は学びの場であり、全ての営みが学習につながるものであるという前提が確認できた。
- 学校と地域が協働するためには、コーディネートする仕組みが必要である。
- 総合的な学習やキャリア教育の分野で特に地域のリソースを活用する仕掛けが必要になる。

・課題

- 会議室への全体の参加者数を増加させる必要がある。
- 学校現場からの意見を紹介できるようにする方法を検討する。
- 県内の学校での教育活動の的確な情報を発信出来るようにする方法を検討する。

不特定多数の県民を対象にした電子会議室の会議運営の難しさがあった。しかしながら議論で出された意見は具体的であり、より深いものであった。地域で子どもを育てるといっているのはどういうことか、そのために果たす学校の役割とは何か、学校と地域の協働のあり方はどうあるべきか、それを実践するための課題は何か、紹介された実践例から何を学ぶのか、公立学校をよりよくしていくためには何が必要なのか、といったことが焦点化された。この電子会議室の活用により、時代に合った地域における子育ての共同性を回復する道筋が見え、子どもを地域で育てるために大人が力を合わせる教育コミュニティづくりによる地域の再生に一歩でも近づいていくものと思う。

3. テーマ3:「奈良県の観光戦略について考えよう」

～観光振興は県最大の課題。皆さんのお知恵を貸して下さい！～

【提案項目】

地場産の農畜産物を購入しやすい仕組みづくり
この会議室で出てきた各意見について、行政の評価を
海外論調の把握、外国語ページの充実
道路標識や案内板が不親切、充実した地図やパンフレットも必要
奈良観光モデルコースの設定
観光3団体の連携が必要
知事公舎を迎賓館化
奈良に「ランドオペレーター」
バーチャルリアリティによる平城宮跡復原(幻視)
県庁の移転と、跡地の活用
正倉院展宝物のレプリカ(模造品)展
奈良美観都市宣言
投稿方法の改善
奈良観光振興への提言
B&B (Bed and Breakfast 宿泊と朝食のみの施設)による誘客

【議論の概要】

前回の会議室のテーマ「奈良の魅力の大発見」の一部を引き継ぐ形で、奈良の観光振興に特化して意見を募った。投稿されは内容を分類すると、次の15の分野で議論された。

泊まらなければ見られない魅力の発信
奈良の夜をどうするか
海外交流のすすめ
地元以外の人をもてなす
ターゲットは団塊世代
修学旅行のサポートプラン
奈良観光のモデルコース
観光戦略(イベント誘致 等)について
奈良の観光活性化
平城宮跡の復原
ランドオペレーター構想
奈良市によるホテル誘致
正倉院宝物のレプリカ(復刻、模造品)展
アジアの人に来てもらおう
奈良美観宣言
観光産業(ホテル、商業施設 等)の誘致
投稿方法の改善
奈良観光振興への提言
B&B (Bed and Breakfast 宿泊と朝食のみの施設)で誘客

4. まとめ

内容の濃い充実した投稿で、専門知識や情報を持った実務に明るい議論が多かった。団塊の世代の定年後の話題も増えている。恐らく、インターネット上のやりとりが進むにつれて、バーチャルな出会いや交流から、いままで、疎遠だった地域活動にどのように参加したらよいかとまどいも見受けられる。教育支援など地域への期待は強くなってきており、これらの動機を引き付ける吸引力が必要になる。それは、県民の目線に合った施策にある。

6ヶ月間における電子会議室のアクセス・投稿状況は、アクセス数(トップ頁)が22,672件、登録者数が66名(累計:127名)、投稿件数が882件(約147件/月)であった。内容の濃い議論ができ、評価のできる内容であった。テーマ1では、5項目、テーマ2では、5項目、テーマ3では、12項目にまとめて提案することができた。しかし、広報活動は十分であったか、運営方法はどうか等を総括して、更により良い電子会議室にするためには、いくつかの課題を解決する施策が必要である。特に、アクセス数、登録・投稿者を増やす施策が必要である。